

む き ばん だ

# 妻木晩田遺跡 (紀元前1世紀～紀元7世紀頃)

～弥生から古墳時代、出雲の変遷を見守り続けた大規模遺跡～

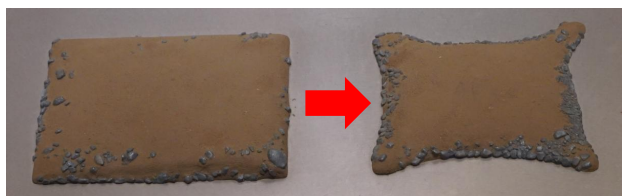
## 目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 「弥生の館むきばんだ」展示
4. 現地写真
5. 「鳥の目」で
6. アクセス

資料  
番号

E2

初版：2025.12.5



## 1. おすすめポイント

★「弥生の館むきばんだ」のパネル展示は非常に丁寧で解りやすいです！

★出雲の独自性である「四隅突出型墳丘墓」の出現と祈りの場である「祭殿」の出現の現場をぜひ！

※もちろんこの地が最初かはわかりませんが・・・、その「変化」をこの地でも経験したことは確かです。

★孝霊山、美保湾を望んで、古代の人々と思いを共有してください。絶景です！

## 2. 説明

大山山系、孝霊山から続く丘陵上に造られた広大な高地性集落と墳墓群、**弥生時代を中心に八百年レベルの長きに渡り使われた貴重な遺跡**です。以下、「弥生の館むきばんだ」の展示内容、および「むきばんだ史跡公園」のHPをもとにその歴史を紹介します。

※写真は「弥生の館むきばんだ」展示パネルからの抜粋です。**時代を共有する遺跡**が紹介されています。**地区名については4頁参照**下さい。

### 【ムラのはじまり】

弥生時代中期後葉  
(紀元前1世紀～紀元1世紀前半頃)

松尾頭地区に竪穴住居が建てられ人々が暮らし始める



2-1

### 【首長墓の出現】

弥生時代後期前葉 (紀元1世紀後半頃)

妻木新山、妻木山地区まで住居域が拡大、洞ノ原地区に**四隅突出型墳丘墓**を主とする墳丘墓群や**環濠**が造られる。



2-2

洞ノ原2号墓は方形墳丘墓、その後造られた洞ノ原1号墓は四隅突出型墳丘墓、**同じ場所で出雲の墳丘墓を代表する形状(四隅突出)への変化が現れたことが興味深いです**

### 【ムラの拡大】

弥生時代後期中葉 (紀元2世紀後半頃)

妻木新山、妻木山、松尾頭の各地区で住居数が増加、洞ノ原地区と仙谷地区に墳丘墓が造られる。

洞ノ原墳丘墓群は四隅突出型墳丘墓1基を最後に造られなくなり、新たに仙谷墳丘墓群が形成される。仙谷1号墓は**妻木晩田遺跡中最大の四隅突出型墳丘墓**



2-3

## 【最盛期のムラ】

弥生時代後期後葉（紀元 2 世紀後半頃）

丘の上全体にムラが広がり**最盛期**を迎える。  
特に妻木山地区では全体の約半数にあたる住居が密集して建てられる。  
松尾頭地区も住居密度も高く、**王の住居**や**祭殿とみられる大型の建物**跡も見つかっている。  
仙谷墳丘墓群では妻木晩田遺跡**最後の四隅突出型墳丘墓**が造られる。

**楯築遺跡**（資料K1参照）、**西谷 3 号墓**（資料E1参照）と時代を共有していたことになり  
ます。  
一方で**祭礼のために特別な「掘立柱建物」を立てる**ようになった点が興味深いです（3章）。「神社」に繋がるものなのでしょうか？



2-4

## 【ムラの縮小】

弥生時代後末期  
（紀元 2 世紀末～ 3 世紀前半）

中心的な居住地域は妻木山地区と松尾頭地区。  
但し、全体的な住居数は減少する。

新たに松尾頭墳丘墓群が形成され、**方形周溝墓**が築かれる。



2-5

## 【ムラの終わりと古墳の築造】

弥生時代後末期後半～古墳時代終末期  
（紀元 3 世紀後半～ 7 世紀頃）

古墳時代になると、ムラは縮小し、次第に居住地としては使われなくなる。

古墳時代中期から終末期までの 300 年間に次々と**古墳**が築造される。  
中には当時の**首長墓とみられる大型円墳**や**前方後円墳**も見られる。



# <地区名について>



2-6

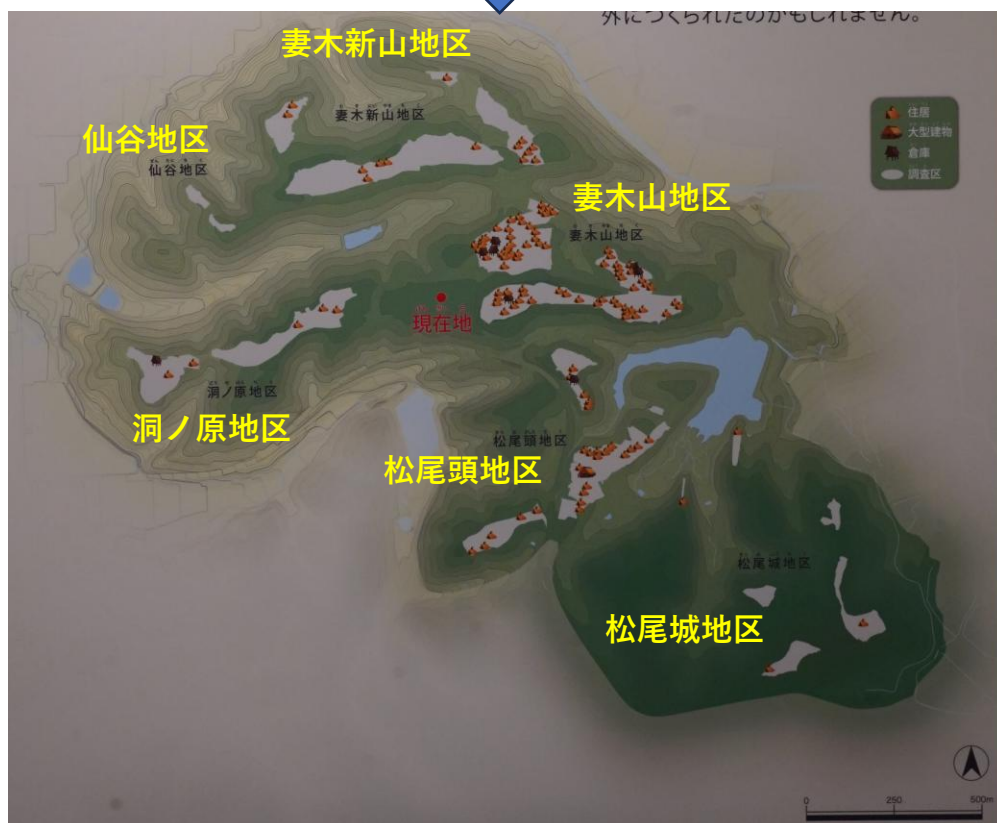
地理院地図



同じスケール



「弥生の館」  
むきばんだ」  
展示の「最盛  
期のムラ」資  
料の地図部  
抜粋、黄文字  
で追記



2-7





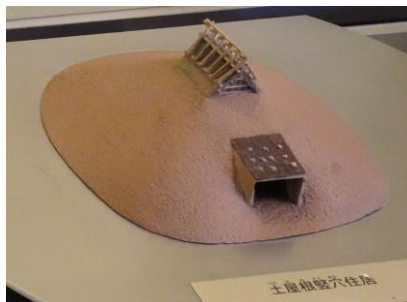
5





3-3

土屋根竪穴住居 復元模型



3-4



3-5 王の住居と思われる建物復元模型

一般？の人々の住居は竪穴式でしたが、弥生時代後期後葉（紀元**2世紀後半頃**）ムラの最盛期の**王の住居**と思われる建物には壁があり、壁を構成する柱が屋根を支えていたようです。

一方で下写真のような**祭殿と思われる建物**が出現している点が興味深いです。山や岩などの祈りの対象からどのような変化があったのでしょうか？  
復元模型ではシャーマンが出現！



3-6 掘立柱、寄棟式屋根、ひさし付き 祭殿と思われる建物復元模型



「ふるさとの美しい景色を眺められるところで眠りたい」と願うのは今も昔も同じなのかもしれません

右写真は本遺跡で最初に造られた「四隅突出型墳丘墓」（洞ノ原1号墓）です。

4-1

4-2



## 洞ノ原墳墓群

洞ノ原地区には1世紀中頃から2世紀前半にかけて、25基のお墓がつくられました。このうちの11基は、その形状から「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれる山陰地方の有力者が好んでつくったお墓です。また、大きなお墓の周りに1辺1~2mの小さなお墓がいくつもあります。大きなお墓に眠る有力者の子どものお墓でしょうか。

このほか、妻木晩田遺跡には仙谷地区、松尾頭地区に墳墓群がありますが、この洞ノ原墳墓群はこれらのうち最も古いものです。ここには「妻木晩田のムラ」を築いた人たちが眠っているのかもしれない。



この墳墓群には方形墓と四隅突出型墳丘墓が混在しています。「四隅」の出現にはどのような情念が働いたのか興味深いです。立体的というよりは平面的ですが、四隅突出という形を明確に表現しています。

- ・石を貼る
  - ・突出部を参道のように使用
  - ・墓上には土器を供えている（おそらく祭祀が行われたのでしょう）
- など、2世紀後半～3世紀前半の西谷墳墓群に繋がる要素がすでに見られます。

現地説明版

## 洞ノ原 11号墓

むきばんだ遺跡に特徴的な小さな四隅突出型墳丘墓です。こうした小型墳丘墓は、大きな墳丘墓の周りを円を描くように並んでおり、子供の墓ではないかと考えられています。11号墓は貼ってある石がよく残っており、四隅が突出しているのがわかります。

時期：弥生時代後期

規模：長辺 1.55m、短辺 1.25m、高さ 0.2m、突出部を含めた長辺は2.15m。



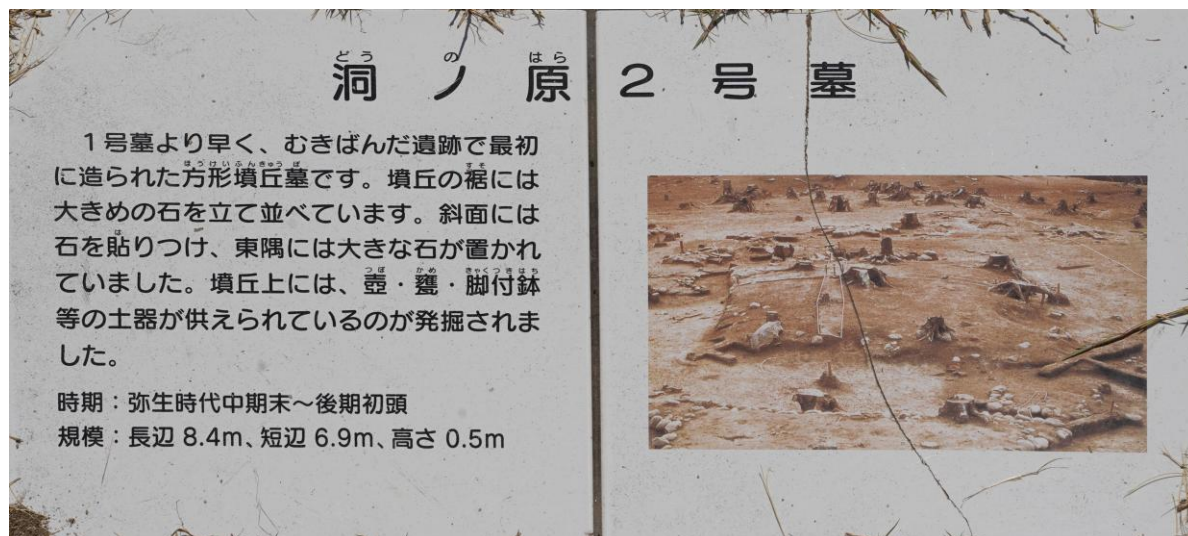
子供用と思われるこんな小さな「四隅」も

4-3



# 「四隅突出型」の形はどのような情念から??

4-4



現地説明版

4-5

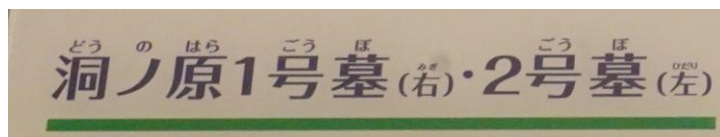


↓ 2号（方形）

↓ 1号（四隅突出型）



4-6



「弥生の館むきばんだ」  
展示



# 洞ノ原地区の西端域に復元されている 竪穴式住居と倉庫



孝霊山に見守られています

4-7

美保湾を一望できます



4-8



4-9



## 5. 「鳥の目」で



5-1

南西方向を望む

下図のように近くに**潟湖**が広がっていたと思われます（3章）。非常に便利な立地だったようです。一方で背後にある孝霊山の山容は正に見守ってくれているようで、単なる利便性だけでないこの地の魅力になっていたのではないのでしょうか

5-2



Google Mapに「弥生の館むきばんだ」の映像展示（図3-2 弥生中期の淀江潟）の情報等を追記

（注）当時の海岸線は現在よりもかなり内陸側にありました。海と湖は繋がっていたようです。停泊に便利！（3章）

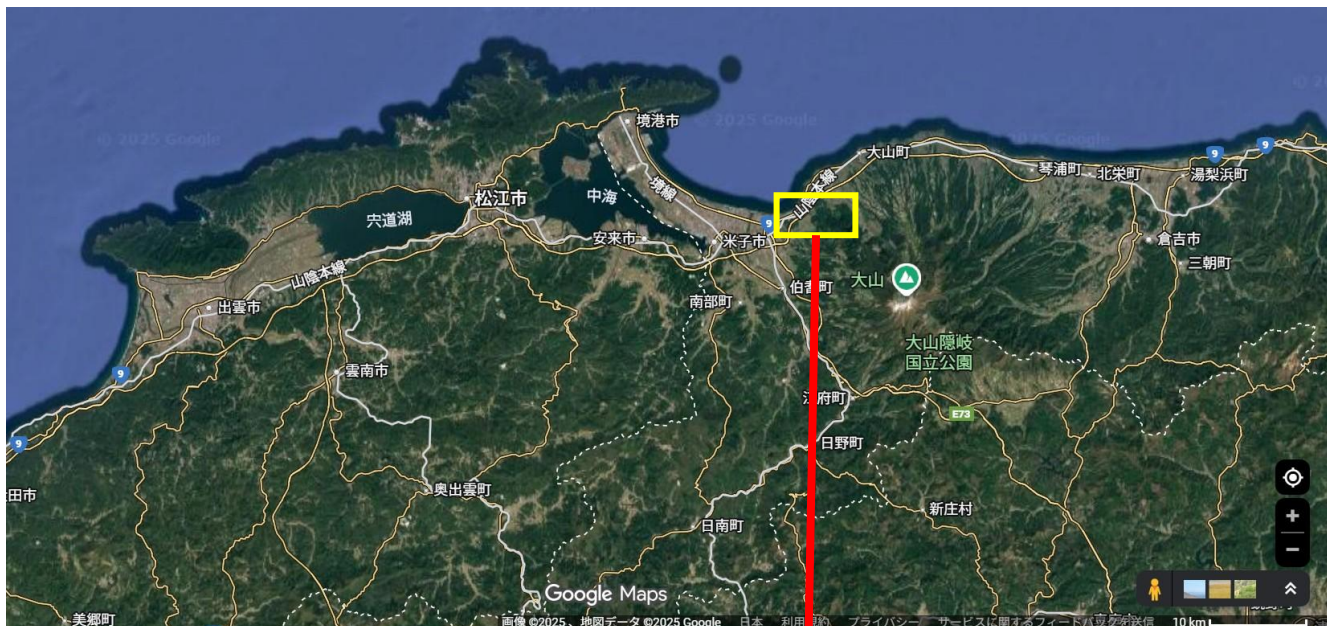


5-3



## 6. アクセス

Google Mapに赤、黄で追記



6-1



6-2

淀江ICの  
すぐそば

地理院地図に赤で追記



6-3

©2025 吉備鳥瞰 All Rights Reserved